

企画展

「紙面で振り返る戦後・釧路～釧路新聞創刊75周年～」

石川 孝織*

2020(令和2)年1月、国内でも新型コロナウイルスへの感染者が確認され、当館も同年4月18日から5月24日まで休館するなど博物館活動に制限がかかる中、デスクワークでできる調査研究として、当館に所蔵されている郷土紙「釧路新聞」とその前身「夕刊東北海道」(1951～1977[昭和26～52]年・初期は欠号多い)について、記事目録の作成および次年度以降の紙面(原紙)展示ができないか検討した。

膨大な労力が必要なことから、記事目録の作成は今回は断念したが、2021年は釧路新聞創刊75周年にあたることから、同社との共同開催として、2021(令和3)年10月9日～2022(令和4)年1月16日、企画展「紙面で振り返る戦後・

北海道新聞」へ移行、1953(昭和28)年に経営難から北海タイムス社と提携し「夕刊北海タイムス」となるが、1955(昭和30)年12月11日に「釧路新聞」として隔日刊で再出発する。現在の号数は、夕刊東北北海道新聞から起算されている。戦後・釧路を刻み続けてきた紙面は歴史の証言者であり、夕刊東北北海道時代から続くコラム「余塵」、また「番茶の味」などの名物連載でも知られる。また「わがマチの人物地図」「釧路百年」など多くの地域出版物を刊行している。

なお、明治～戦前にも石川啄木も編集長を務めたことでも知られる同名の新聞が存在したが((旧)釧路新聞と称することが多い)、こちらは戦時統制により現在の北海道新聞に統合され、直接の関係はない。

展示対象期間は、当館に所蔵がある「夕刊東北海道」時代の1951(昭和26)年から、昭和の終わり(1989[平成元年]1月8日)までとし、当館に所蔵がない期間(主に1978[昭和53]年以降)は、釧路新聞社所蔵の紙面を借用した。なお、釧路新聞社側では代表取締役社長の星匠氏、メディア管理部長の馬場信一氏らが本展を担当された。

展示となる紙面は38年間分を1日1日、手と目でチェックし、数次にわたる選択作業を経て候補を絞り込んでいった。殺人や窃盗などの「犯罪事件」を除く、主に釧路市・釧路管内に関するできごとを選択した。これは主担当者(筆者)のほか、澤田恭平・佐藤加奈が担当した。企画展での展示という面から、小さな記事は除外するなど、客観的ではない条件も含めていることから、選択結果は「通史的」「網羅的」とはならない。いっぽうで釧路が歩んできた昭和を、リズムよく「へえ～」「なるほど」と楽しんでいただけたかと思う(展示紙面の見出しリストは次ページ)。

会場ではあわせて同紙記者による回想、報道写真の展示、また紙面数点と回想、年表などを収めた、タブロイド判の解説パンフレットの配布を行った。ポスターとともに、釧路新聞で使用されている新聞紙・印刷機を使用し、新聞展示にふさわしいものとした。

また、一部紙面のみであるが、イオンモール釧路昭和にてサテライト展示を行った(3月3日～4月3日)。

釧路教育委員会では、(旧)釧路新聞を市文化財に指定しているが、新聞記事がもつ「歴史継承」での価値は戦後以降についても同様である。帯広市図書館では郷土紙について、戦後も一部ではあるが館内端末で検索することができる。今後、釧路市中央図書館・釧路新聞社とともに、よりアクセスしやすい存在として、釧路新聞の過去記事が活用できる方法を考えて行くことができればと思う。



「釧路新聞」としての初号となった
1955(昭和30)年12月11日付け紙面(1面) 当館蔵

釧路～釧路新聞創刊75周年～」を当館マンモスホールで開催した。

釧路新聞は、1946(昭和21)年4月に創刊された「月刊クシロ」がその源流である。同年11月27日には「夕刊東北

*釧路市立博物館

「夕刊 東北海道」	
昭和26 (1951) 年 5月21日	涙さそう浜中村茶内 大原劇場の惨事
昭和27 (1952) 年 1月12日	脚光浴ぶ北洋漁業基地 釧路
昭和27 (1952) 年 2月20日	片岡博物館長の夢実現の方向へ 鶴ヶ岱公園
昭和27 (1952) 年 5月19日	花は二分でも人ざかり ※観桜の記事
昭和27 (1952) 年10月1日	きょう日本銀行釧路支店開業 道東産業への指導性
昭和27 (1952) 年12月18日	炭車63日ぶりで動き出す 炭労ストついに解除
「週刊 東北海道」	
昭和29 (1954) 年10月23日	「週刊東北海道」創刊
昭和30 (1955) 年 1月16日	1955年 スポーツ界の展望
「釧路新聞」昭和30年代	
昭和30 (1955) 年12月11日	「釧路新聞」へ改題第1号
昭和31 (1956) 年 6月 2日	皆で町名を考えよう ※市内鉄北地区23の町名を公募
昭和32 (1957) 年 5月 3日	大漁旗ひるがえし 北洋船団きのう出航
昭和32 (1957) 年 6月 9日	新クシロ名所⑦ 結び橋 交通量1日に2万人
昭和32 (1957) 年 9月 3日	好評を博す雄別のジーゼーカー 商店の売上も増伸
昭和32 (1957) 年 9月 5日	眠る開発資源に第一歩 白糠線きょう歴史的起工式
昭和34 (1959) 年 5月13日	力道山一行来る 世界の強豪五選手参加
昭和34 (1959) 年 8月17日	夜空彩る夢幻の境 新釧路川花火大会
昭和34 (1959) 年10月 3日	米国の同種工場に匹敵 本州製紙工場十日に落成式
昭和36 (1961) 年 3月16日	釧路のためにつくられた? 人気上々の除泥器
昭和36 (1961) 年 3月19日	ひん死の春採湖 汚水でいっぱい
昭和36 (1961) 年 8月 4日	勇躍 甲子園へ出発 江南高野球部
昭和36 (1961) 年 9月10日	(広告) 釧路ステーションデパート完成
昭和36 (1961) 年12月 2日	(広告) 祝 釧路民衆駅竣工
昭和37 (1962) 年 2月16日	人口十六万を突破 著しい増加ぶり
昭和37 (1962) 年 3月31日	二軒に一台の普及 五月に本放送を開始
昭和37 (1962) 年 5月 8日	きょうから本放送開始 HBCテレビ
昭和37 (1962) 年 8月 6日	港まつり市民パレード 花吹雪の中を行進
昭和39 (1964) 年 4月25日	危い!ここは線路だ 雄別鉄道中園駅
昭和39 (1964) 年10月 8日	6年間の苦勞実る 国鉄白糠線、遂に開通
昭和40年代	
昭和40 (1965) 年 1月23日	古来の神儀を再現 熊まつり 初の試み冬の花火大会
昭和40 (1965) 年 2月 5日	(広告) 第1回くしろ氷まつり
昭和40 (1965) 年 6月21日	華麗、和やかな祭典 伝統を誇る市民運動会
昭和40 (1965) 年 7月 1日	市民が選んだ観光クシロの景観 ベスト10
昭和41 (1966) 年 6月26日	音別フキ祭り きょう盛大に開催
昭和41 (1966) 年 7月25日	きょうから本格的発掘調査 東釧路貝塚
昭和41 (1966) 年 8月27日	期待される木材産業の発展 釧路港水面貯木場が完成
昭和41 (1966) 年10月26日	開拓農家の足 簡易軌道が全線開通
昭和42 (1967) 年 1月 1日	ほくらの釧路をこうしたい 子どもの発言
昭和42 (1967) 年 1月15日	博物館の早期移築を 山口市長に要望書
昭和42 (1967) 年 5月20日	プロレス釧路大会 馬場、ジョナサンと対決
昭和43 (1968) 年 4月27日	釧路-東京空の旅 夢の直行便再開
昭和43 (1968) 年 8月 6日	(広告) 祝 十条サービスセンター 新店舗落成

昭和43 (1968) 年 9月17日	釧路港中央ふ頭 きょう盛大な完工式
昭和43 (1968) 年12月17日	坑底から悲痛な叫び 石炭答申案に反対
昭和44 (1969) 年 1月 9日	ようやく電気がついた! 釧路市高山
昭和44 (1969) 年 5月16日	(広告) 太平洋スカイランド 愈々明17日オープン
昭和44 (1969) 年 5月22日	(広告) あす23日 市内局番が2ケタに変わります
昭和45 (1970) 年 4月17日	フィナーレ釧路行20時01分 雄鉄最後の日
昭和45 (1970) 年 5月30日	きょう静かに閉校式 雄別小と雄別中
昭和45 (1970) 年 7月 4日	着々進む国道の舗装工事 46年には全面開通 釧路-根室間
昭和46 (1971) 年 6月 3日	サケ・マス大漁に湧く釧路港
昭和47 (1972) 年 9月 9日	工業地域として有力 釧路湿原 安原地区から南側
昭和48 (1973) 年 4月22日	どこへ行く天然マリモ なんと「養殖マリモ」がブーム
昭和48 (1973) 年 7月 6日	9月に公害防止協定 釧路市 本州製紙 十条製紙
昭和48 (1973) 年 8月 4日	釧路湿原調査始まる まず北大が水質調査
昭和49 (1974) 年 5月27日	太平洋炭硯 石炭の見直しで活気づく
昭和49 (1974) 年12月15日	釧路西港に待望の第一船 新たな流通の門戸に
昭和50年代	
昭和50 (1975) 年 4月 7日	一日平均二千枚も売れる入場券 送迎で混雑の釧路駅
昭和50 (1975) 年 7月25日	S L 引き取り申請はしたものの 多額の運搬費必要
昭和50 (1975) 年 9月24日	いよいよ来月一日開園 釧路市動物園
昭和50 (1975) 年11月20日	「20万都市」に仲間入り 釧路市人口 206,689人
昭和51 (1976) 年 2月13日	漁船員にモテモテ ミュージックテープ
昭和51 (1976) 年 7月27日	十条製紙 不況脱出後の大一番 113億円かけ抄紙機
昭和51 (1976) 年 8月29日	魚脂公害をふりまく 滑ってブレーキが
昭和51 (1976) 年10月14日	消えゆくバス車掌 いまではわずか26人
昭和51 (1976) 年11月27日	名橋 五代目幣舞橋 喜びの渡り初め
昭和52 (1977) 年 2月26日	ソ連二百カイリ規制に怒りと不安 一方的な北方四島含む線引き
昭和52 (1977) 年 6月 2日	キタサンショウウオ 温根内で最大の生息地発見
昭和53 (1978) 年 7月31日	こども博最高潮 道東各地からどっと
昭和56 (1981) 年 7月 9日	どっと三万人 イトヨーカドー 釧路店オープン
昭和56 (1981) 年 8月 8日	拍子抜けの視察 高木総裁の白糠線視察同乗記
昭和56 (1981) 年10月 1日	(広告) 「釧路新聞電光ニュース」 釧路駅屋上に登場
昭和56 (1981) 年10月 2日	待望の国鉄・石勝線が開業 道東発展の期待乗せ
昭和57 (1982) 年10月10日	盛大に「出世坂」完成式 釧路市制施行60周年記念事業
昭和58 (1983) 年11月 3日	市立博物館きょうオープン 全国トップの規模
昭和60年代～平成	
昭和60 (1985) 年 7月26日	郷土に定着するか 霧フェスティバル
昭和61 (1986) 年11月 3日	試練の経営正常化 民営化でどう変わる釧路局
昭和62 (1987) 年 8月 1日	釧路湿原国立公園が誕生 盛大に祝賀パレード
昭和63 (1988) 年 3月14日	喜べぬ少雪 車粉舞うし道路は傷む
平成元 (1989) 年 1月 9日	天皇陛下崩御 マチ中に半旗、祝い事中止…